

南アフリカ グレープフルーツの輸出実績

[FreshPlaza 2024年11月6日](#)

CGA柑橘類サミット2025はグレープフルーツ輸出の課題と回復を重視

当初の予測(3月中旬に作成)では、輸出用グレープフルーツの梱包数量は、昨年の1,300万箱から約14%増となる1,480万箱(17kg/箱)と見込まれていた。これは、過去数年間に北部地域で見られた乾燥状態からの回復に基づくものである。この推定値では、収穫量が2022年シーズンと同程度になるとも予想されていた。この2024年の推定出荷量には、加工用に仕向けられる数量(PP級やクラス3)が含まれている。

最終的に梱包された箱数は1,270万箱で、予測を約14%下回った。この減少は、果実の小玉化、色付きの問題、国内での良好な果汁価格など、いくつかの予測不能な要因によるものであった。最大の産地であるレツイテレ地域では400万箱で、予測を20%下回った。ホドスプルート地域では330万箱で予測を12%下回り、アンダーバーグ地域では予測を16%下回る160万箱であった。

赤肉系グレープフルーツはサイズ40、45、50が多く、白肉系グレープフルーツはサイズ45、40、50が多かった。今シーズンの梱包のピークは第16週(4月半ば)から第21週(5月下旬)で、平均梱包率は1週間当たり97万箱であった。

欧州連合(EU)は依然として南アフリカ産グレープフルーツの最大の市場であり、約8万3千トンを入力した。中国の南アフリカ産グレープフルーツの輸入量は、2023年の3万4千トンから2024年には3万6千トンに増加した。この増加は、主に中国に輸出されるPP級(加工用)果実の割合が増えたことによるものである。また、ロシアの輸入量も2万トンから2万2千トンに増加し、日本(2024年は1万9千トン)をわずかに上回った。そして最後に米国が1万トンで、これらが上位5つの市場である。

メキシコ ブルーベリーの生産量が増加

[FreshPlaza 2024年11月7日](#)

メキシコの2024年のブルーベリー生産量は干ばつにもかかわらず増加する見込み

米国農務省のブルーベリー年次報告書(同省メキシコ事務所が任意提出)では、2024年のメキシコのブルーベリー生産量は2023年に比べて8%増となる8万1千トンに達すると予測している。この増加は、十分な水供給と輸出需要の増加によるものである。メキシコが干ばつに直面しているにもかかわらず、ベリー業界は、効率的な灌漑技術、私有の貯水池、及び多額の運営資金のおかげで、3年に及ぶ水不足の影響を緩和する態勢を整えている。さらに、干ばつに強い多収性新品種の採用も進んでいる。

2023年産の生産量は、革新的な栽培方法、新品種の導入、及び旺盛な輸出需要による成長を反映して8万181トンと推定され、2023/24年度シーズンの輸出量は6万7,474トンを記録した。輸出のピークは4月で、1万7,406トンが出荷された。10月から1月にかけての低価格のペルー産との競争に対抗するため、メキシコの生産者は2024年の収穫開始を2月上旬に延期した。これは、出荷量に影響を与える可能性がある。

2024/25年度シーズンを見据えると、今シーズンと比較して輸出量が10%減少すると予測される。それにもかかわらず、ベリー類はT-MEC貿易協定の下で米国とカナダへの無税アクセスの恩恵を受けており、依然としてメキシコの主要な輸出農産物である。米国はメキシコのブルーベリー輸出の約97%を占めている。メキシコのベリー類輸出の中ではイチゴが54.5%で最も多く、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、及びベリーの混合品がそれに続く。

国内市場の強化に向けた取り組みが続いているため、輸出量の減少傾向は必ずしも業界の衰退を示すものではない。このセクターへの真の影響を知るためには、輸出と国内市場の両方の出荷フローを分析することが必要かも知れない。

出典: [Blueberries Consulting](#)